



®環境省
エコアクション21
認証番号0010347

2025年度版 環境経営レポート

対象期間:2025年4月1日~2026年3月31日

発行日:2026年7月1日



おせんちゃん

米沢市マスコット
キャラクター



かねたん

米沢市マスコット
キャラクター

米沢市は、上杉家家臣で文武兼備の智将として
名高い直江兼続(なおえかねつぐ)ゆかりの地です。



ネクスト環境コンサルタント株式会社

〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17

TEL0238-29-0025 FAX0238-29-0015

<http://www.next-enviro.co.jp>

～ 目 次 ～

- 0. SDGs(当社の事業活動に関連するゴールとターゲット).....p1～2
- 1. 環境経営方針.....p3
- 2. 組織の概要p4～5
 - 2-1. 事業者名及び代表者氏名
 - 2-2. 所在地
 - 2-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先
 - 2-4. 設立年月日
 - 2-5. 資本金
 - 2-6. 事業活動の内容と対象サイト(認証・登録範囲)
 - 2-7. 事業の規模
 - 2-8. 環境マネジメントシステム実施体制
- 3. 環境経営目標とその実績.....p5～15
 - 3-1. 環境負荷の現状(2024年度環境負荷自己チェック結果より)
 - 3-2. 環境経営目標(単年度・中期)と達成状況
 - 3-3. 次年度の環境経営目標
- 4. 環境経営計画と取組結果並びに次年度の取組内容 p16～17
 - 4-1. 環境経営計画の取組状況の評価(2023年度)
 - 4-2. 次年度の取組内容
- 5. 環境関連法規等の順守状況, 訴訟等の有無 p17～18
 - 5-1. 適用を受ける環境関連法規等とその順守状況
 - 5-2. 訴訟等の有無
- 6. 代表者による見直しの結果(経営者のコメント) p18



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



私たちは、SDGsとの関連性を強く意識してEA21の取組を推進していきます。



当社の事業活動に関連するゴールとターゲット

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3.9: 有害化学物質, 並びに大気, 水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4.4: 技術的・職業的スキルなど, 雇用, 働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>5.B: 女性の能力強化促進のため, ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>6.3: 汚染の減少, 投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化, 未処理排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の大幅増加により, 水質を改善する。 6.6: 山地, 森林, 湿地, 河川, 帯水層, 湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>7.2: 世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.3: 世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8.1: 一人当たり経済成長率を持続させる。 8.2: 多様化, 技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9.4: 資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により, 持続可能性を向上させる。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11.6: 大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め, 都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.2: 天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。 12.4: 製品ライフサイクルを通じ, 環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し, 人の健康や環境への悪影響を最小化するため, 化学物質や廃棄物の大気, 水, 土壌への放出を大幅に削減する。 12.5: 廃棄物の発生防止, 削減, 再生利用及び再利用により, 廃棄物の発生を大幅に削減する。</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13.3: 気候変動の緩和, 適応, 影響軽減及び早期警戒に関する教育, 啓発, 人的能力及び制度機能を改善する。</p>
 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>14.1: 海洋ごみや富栄養化を含む, 特に陸上活動による汚染など, あらゆる種類の海洋汚染を防止し, 大幅に削減する。 14.3: あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて, 海洋酸性化の影響を最小限化し, 対処する。</p>
 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>15.1: 森林, 湿地, 山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全, 回復及び持続可能な利用を確保する。 15.2: あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し, 森林減少を阻止し, 劣化した森林を回復し, 世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。 15.4: 持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため, 生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う。 15.5: 自然生息地の劣化を抑制し, 生物多様性の損失を阻止し, 絶滅危惧種を保護し, また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>7.17: さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした効果的な公的, 官民, 市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>

ネクスト環境コンサルタント株式会社

環境経営方針

<基本理念>

ネクスト環境コンサルタント株式会社は、環境に係る測定・分析・調査及び排水処理施設の設計・施工その他薬品販売などの事業活動を行っていますが、その過程において、様々な化学物質や電力・化石燃料などを消費し、廃棄物の発生も伴います。環境関連法規等を遵守しつつ、それらの環境負荷を楽しく低減できるしくみを構築運用しながら継続的に改善を進め、さらに、Web等を活用し、事業活動を広く発信することにより、地域全体に広めてまいります。たとえ自らの取組の成果は小さくても、その活動が連鎖的に広まっていけば、やがて大きな削減効果へとつながっていくものと確信しています。環境保全が重要な経営課題であることを認識し、次世代に美しい自然を残せるよう、企業の社会的責任を果たしていきます。

<行動指針>

- § 地球温暖化防止のため、楽しい節電・省エネの取組を考え、実行します。
- § 環境保全・省エネにつながるサービスの創造を行ないます。
- § お客様や地域の環境負荷の低減につながる提案や情報提供を積極的に行います。
- § 自らが環境関連法規等を遵守することは当然のこととし、さらに理解を深め、その意義を利害関係者へと広めていきます。
- § IT技術を活用し、業務の効率化と信頼性の向上を目指します。
- § 社内の整理整頓を心がけ、身近な環境保全を見失わないようにします。
- § SDGs(持続可能な開発のための2030アジェンダ)を意識しつつ、環境問題を幅広く捉えて、行動していきます。
- § 環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善していきます。



制定日 : 2014年10月1日

最終改定日 : 2020年6月2日

ネクスト環境コンサルタント株式会社

代表取締役 **武田誠一郎**



2. 組織の概要

2-1. 事業所名及び代表者氏名

- ネクスト環境コンサルタント株式会社
- 代表取締役 武田 誠一郎

2-2. 所在地

- 〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17

2-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

- 環境管理責任者: 小西 秀明
- 連絡担当者: 菅野 淳
- 連絡先: TEL0238-29-0025 FAX0238-29-0015
- Email: info@next-enviro.co.jp

2-4. 設立年月日

- 2005年(平成17年)4月19日

2-5. 資本金

- 1,000万円

2-6. 事業活動の内容と対象サイト(認証・登録範囲)

- 事業活動の内容:
水質分析, 大気測定, 土壌・廃棄物分析, 微生物検査, 作業環境測定, 薬品販売,
環境コンサルティング業務, 排水処理施設・局所排気装置の設計・施工, 一般建設業
- 対象サイト: 本社, 建設工事現場, 某工場内分析業務請負現場(岩手県内事業所)

※2026年3月までの期間限定で、能登半島地震復興関連業務を請け負っており、この業務を対象外としているため、一時的ではありますが、全組織・全活動を対象とした活動とはなっておりません。(サイト認証)

2-7. 事業所の規模

活動規模: 売上高 (内建設業)	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	千円	294,282 (24,000)	335,068 (24,000)	308,986 (17,600)	656.362 (18,500)	657.694 (65,000)
従業員数	人	20	24	23	23	24
床面積(1, 2階合計)	m ²	601.8				
床面積(1階部分)	m ²	302.3				
建設工事实績	件	19件	31件	26件	2件	6件

※売上高は当社会計年度(4月～翌年3月)に合わせて集計。2021年度以降、土壌汚染対策関連業務(岩手県内事業所内での分析業務)の売上を含む。2024と2025年度の売上額には、能登での震災処理関係業務の売上げが加わっている。

※従業員数は各年度4月1日時点での在籍人数。

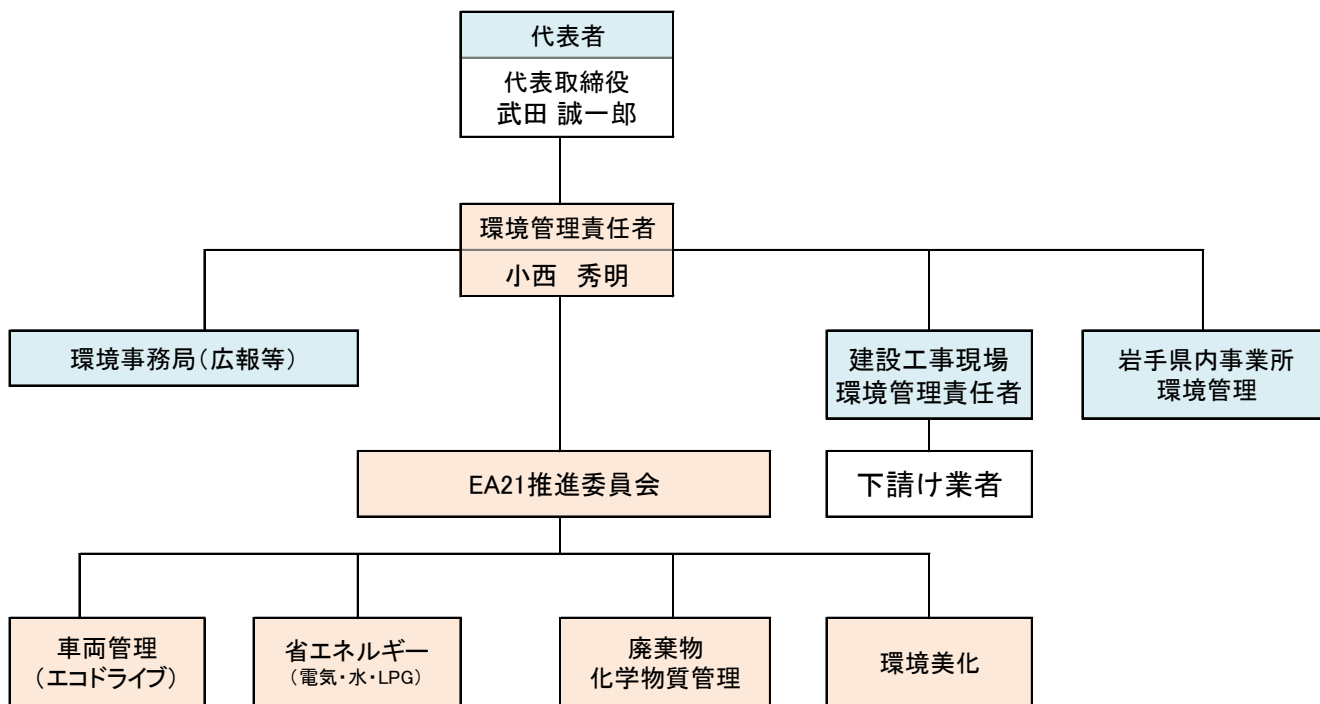
※床面積の内、1階部分は、当社が実験室として使用している。2階部分は東北警備保障と共用している。



社屋全景。2階は系列会社の東北警備保障と共用しています。1階は実験室主体で当社が使用しています。



2-8. 環境マネジメントシステム実施体制(2026年4月現在)



3. 環境経営目標とその実績



3-1. 環境負荷の現状(2025年度環境負荷自己チェック結果より)

■ 二酸化炭素排出量

- 電力使用に係る二酸化炭素排出係数については、東北電力(2022年調整後:0.471)を用いて集計しています。
- 電力使用量については、目標管理上、2階分は、すべて東北警備保障が使用したものとみなし、当社では、1階使用分を対象に目標管理していくこととしました。なお、水とLPGは東北警備保障使用分と合算になります。
- 岩手県内事業所環境管理業務に係る環境負荷ならびに建設現場に係る環境負荷(建設廃棄物を除く)については含まれていません。

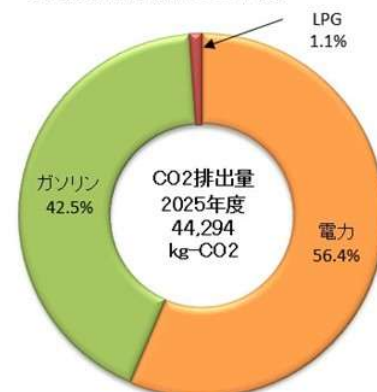
1) 当社における2025年度(2025.4~2026.3)のCO₂排出量は合計44,294kg-CO₂となっており、平均的な一般家庭12.5軒分の排出量※1に相当していました。2024年度に比べ、6.2%増加しました。

※1…2024年度1世帯あたりの平均年間排出量は3,530kg-CO₂
(出典:温室効果ガスインベントリオフィス)

2) 当社から排出されるCO₂の56.4%は電力の使用に伴うもので24,982kg-CO₂、化石燃料の使用に伴うものが43.6%で19,312kg-CO₂となっていました。化石燃料の内訳は、ガソリンが18,833kg-CO₂で42.5%、LPGが479kg-CO₂で1.1%となっていました。2024年度比電力使用量は7.7%、ガソリンは5.2%いずれも増加しました。

3) ガソリンは、業務あるいは営業車両の運行に伴い消費します。現場サンプリングや営業関係での使用になるため、業務量に比例して増減します。

<二酸化炭素排出源(2025年度)>



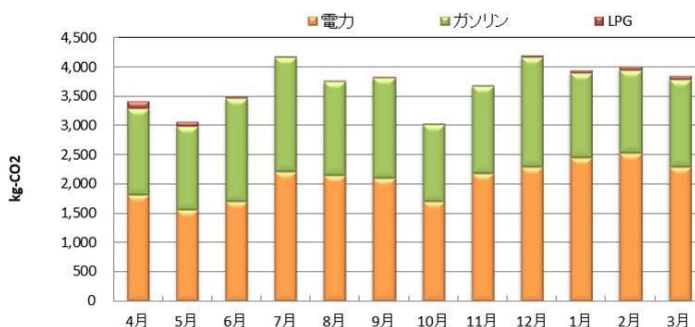
<二酸化炭素の排出源(2025)>

排出源	CO2-kg	割合
電力	24,982	56.4%
化石燃料	19,312	43.6%
ガソリン	18,833	42.5%
LPG	479	1.1%
合計	44,294	100%

4) 電力の月別のCO₂発生量は、7～9月と12～3月に増加する傾向があり、暖冷房による環境負荷であろうと思われるが、それほど顕著ではありません。暖冷房負荷の他、分析業務使用機器での負荷の割合が大きいものと思われます。

5) 以上のことから、車両運行に伴うガソリンの消費や実験室等での電気使用量をいかに減らしていくかが取組の重点課題となります。

<月別二酸化炭素排出量(2025年度)>



■ 廃棄物排出量

1) 一般廃棄物

段ボール類107kg(2024年度比28%減), 可燃ゴミ487kg(2024年度比10.2%減)などを排出しました。前者はリサイクルされますが、後者は分析試料の梱包材などが主でリサイクルは難しいのが現状です。この他、紙類(廃棄書類等)185kg(2024年度比12.8%減)を排出し、すべて、溶融処理(リサイクル)しました。

2) 産業廃棄物(特別管理産業廃棄物を含む)

特別管理産業廃棄物として、重金属廃液175kg(2024年度比2.9%増), Mn廃液150kg(2024年度比17.1%減)を排出しました。この他、廃ガラス類(使用済みのサンプリング容器や破損したガラス器具など)を183kg(2024年度比48%増), 廃プラ(ディスプレイ容器等)を248kg(2024年度比23%増), その他不燃物を122kg(2024年度比85%増)を排出しました。

3) 建設系産業廃棄物

アスコン・コンクリートがらを140t, 木くずを420t排出しました。これらはすべて再資源化しています。

■ 総排水量(水使用量)

東北警備保障との合算での集計となります。地下水等の利用はないことから、上水使用量と総排水量は等しく、493m³使用, 2024年度から0.2%増加しました。ここ数年, 使用量は安定しています。

■ 化学物質使用量

環境分析業務で使用する試薬類でPRTR法※2に該当するものは、アセトニトリル, 二硫化炭素, ノルマルヘキサンなど29物質となっています。(使用量はp10をご覧ください)

※2…PRTR法(化学物質排出把握管理促進法)とは、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が事業所から環境(大気, 水, 土壌)へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。なお、当社には届出義務はありません。

3-2. 環境経営目標(単年度・中期)と達成状況

環境経営方針との整合性を図りながら、環境負荷の自己チェック結果を踏まえ、6項目(二酸化炭素, 廃棄物, 水, 化学物質, 製品・サービス関連, 地域貢献活動対応項目)について、環境経営目標(単年度目標&3年間の中期目標)とその達成に向けた活動計画を策定し、取組を行いました。達成状況は次のとおりです。

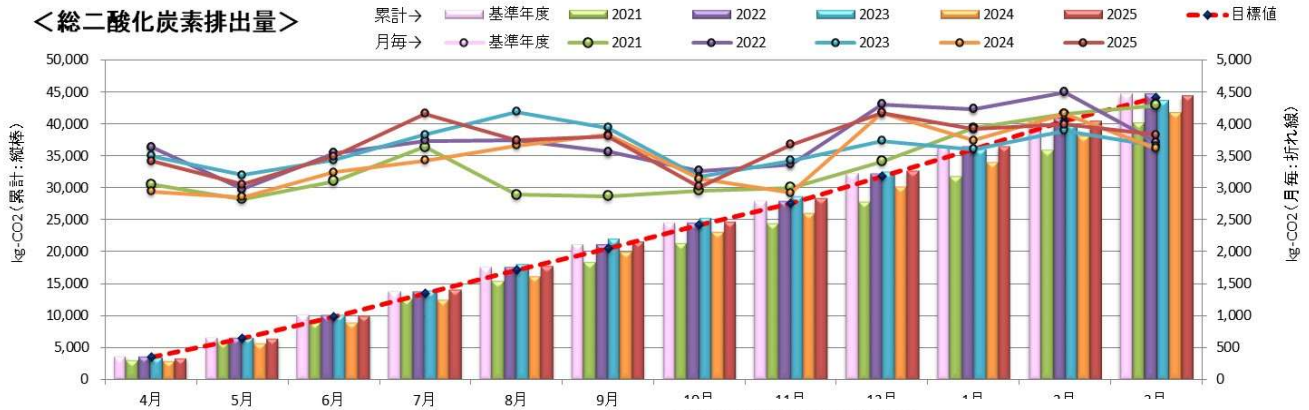
なお、某工場内分析業務請負現場については、定性的な取組み目標を定め、その取組み状況を管理することとし、建設現場においては、比較的大規模な工事を対象として、現場毎に「建設現場環境経営方針・環境経営目標・環境経営計画」を策定し、その取組状況を把握管理していきます。

注)原単位として用いた「売上高」については、本社業務のみを対象とします。
 また、取り消し線は年度途中で目標値が変更されたことを示しています。
 ※二酸化炭素排出係数:0.471(2022年度東北電力調整後)

■ 総二酸化炭素排出量

【2025年度目標】売上高あたりのCO₂排出量を2014年度比63%⇒42%削減
【中期目標(2025~2027)】同上2014年度比65%⇒44%削減

＜総二酸化炭素排出量＞



【取組結果】※()内は売上高100万円あたり

- 2022(2014)年度実績: 44,605kg-CO₂ (335)
- 2025年度目標: 43,267⇒44,159 kg-CO₂ (124⇒194)
- 2025年度実績: 44,294 kg-CO₂ (200)
- 増減量: -311 kg-CO₂ (-135)
- 増減率: -0.7% (-40.4%)

＜売上高あたりのCO₂排出量＞

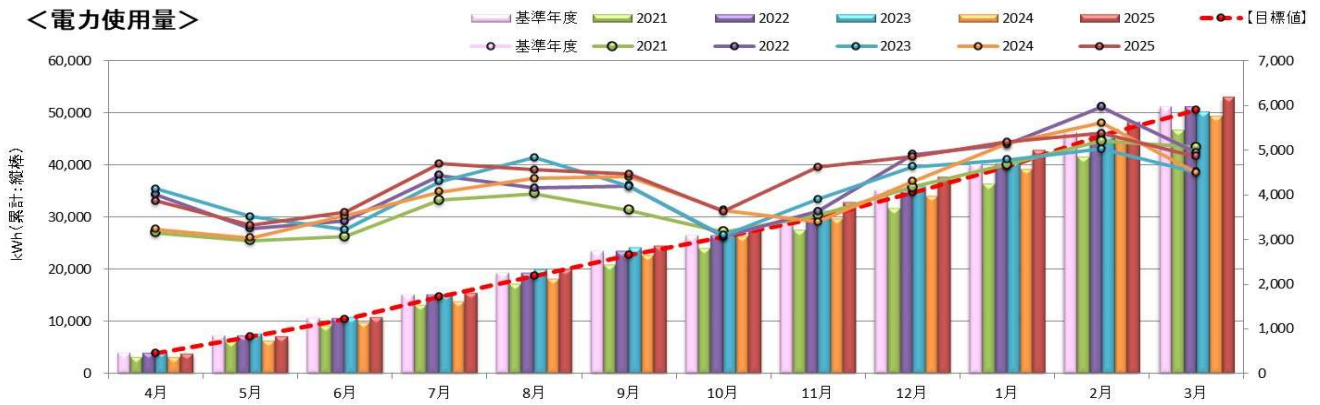


【コメント】今期の売上げは通常の状態に戻り、2024年度の実績値が参考にならなくなったため、年度途中で目標値を見直しましたが、見直し後の目標にも若干届きませんでした。しかし、売上高あたりのCO₂排出量は順調に低下しています。

■ 電力使用量

【2025年度目標】売上高あたりの使用量を2014年度比55%⇒32%削減
【中期目標(2025~2027)】同上2014年度比57%⇒34%削減

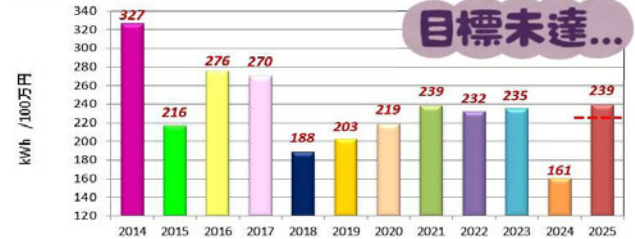
＜電力使用量＞



【取組結果】※()内は売上高100万円あたり

- 2022(2014)年度実績: 51,136kWh (327)
- 2025年度目標: 49,602⇒50,625kWh (147⇒222)
- 2025年度実績: 53,040kWh (239)
- 増減量: +1,904kWh (-87)
- 増減率: +3.7% (-26.7%)

＜売上高あたりの電力使用量＞

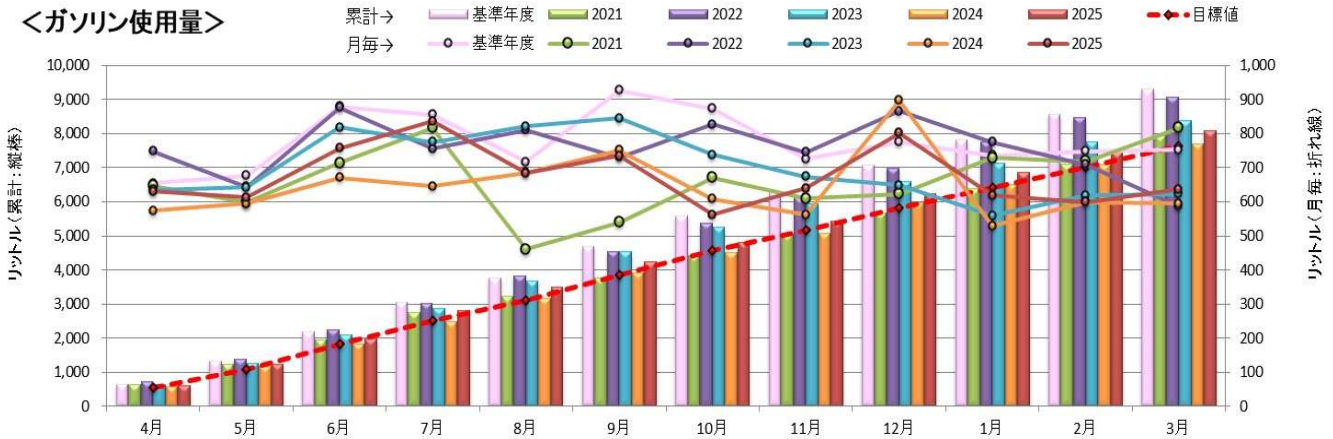


【コメント】新たに器具洗浄機を導入したことにより電力消費が多くなりました。装置稼働集約などによる計画的運転やこまめな電力のOFFなどは心掛けてはいますが、稼働する装置自体が多くなると電力増加は不可避となります。今後も売上高あたりの目標達成を目指し、一層業務の効率化に努めていきます。

ガソリン使用量

【2025年度目標】売上高あたりの使用量を2014年度比70%⇒55%削減
【中期目標(2025~2027)】同上2014年度比72%⇒57%削減

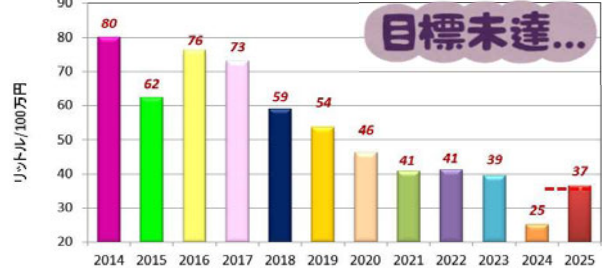
<ガソリン使用量>



【取組結果】※()内は売上高100万円あたり

- 2019(2014)年度実績: 9,325 ℓ (80)
- 2025年度目標: 7,647 ℓ (24⇒36)
- 2025年度実績: 8,112 ℓ (37)
- 増減量: -1,213 ℓ (-43)
- 増減率: -13.0% (-54.3%)

<売上高あたりのガソリン使用量>



【コメント】平均燃費は向上したものの、燃料使用量削減目標には届きませんでした。これは業務量増加に伴い、移動距離も増加(2024年度比17%増)していることに起因すると思われます。売上高あたりの目標については、変更後の目標に、わずかに届きませんでした。

ガソリン(燃費)

【2025年度目標】車両燃費を15km/ℓ以上を維持
【中期目標(2025~2027)】車両燃費を15km/ℓ以上を維持

【取組結果】

- 2014年度実績: 13.2 km/L
- 2025年度目標: 15 km/L以上
- 2025年度実績: 15.8 km/L
- 燃費向上量: +2.6 km/L
- 向上率: +19.7%

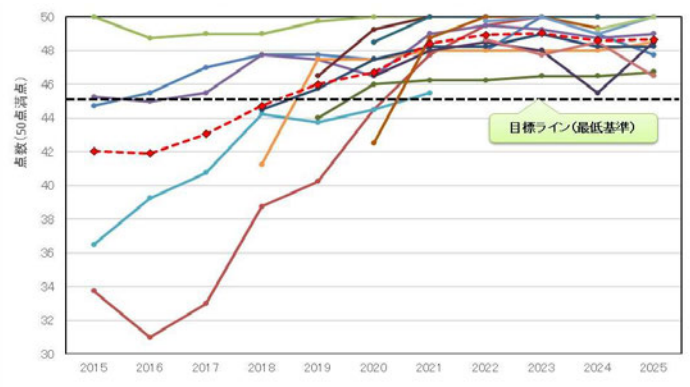
<車両燃費>



【コメント】毎年、夏季の燃費に比べ、冬季の燃費が大きく低下する傾向が見受けられます。大雪になった年は特に燃費が落ち込みます。2024年度は例年になく大雪でした。今年度更新したフィットは、年間燃費が21.1km/ℓと他を圧倒しており、全体の平均燃費を押し上げました。フィットに次いで、ミライース(17.1km/ℓ)、フィルダー(15.1km/ℓ)、プロボックス(13.5km/ℓ・12.5km/ℓ)の順になっていました。今後も計画的に低燃費車への更新を行っていきます。

エコドライブ自己チェックについては、すっかり定着しており、全社員が目標ラインをクリアしています。

エコドライブ自己チェック結果の推移(50点満点)

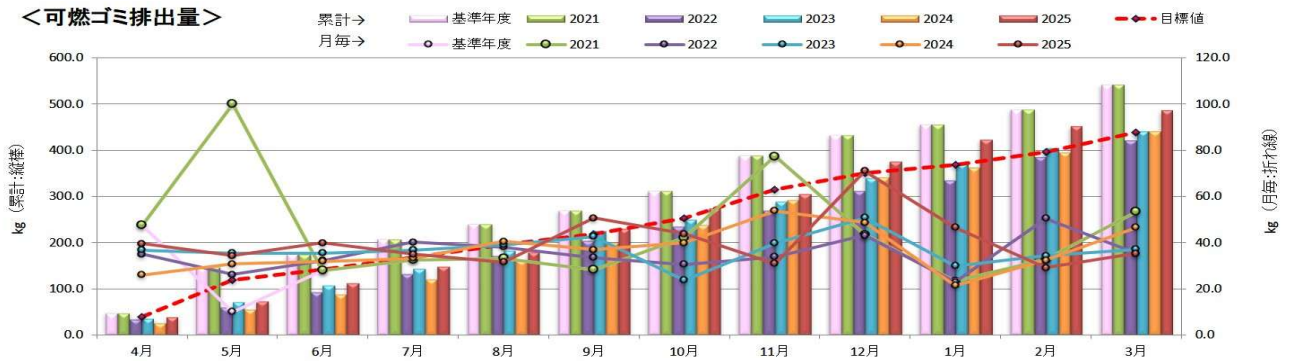


■ 廃棄物排出量（一般廃棄物）

【2025年度目標】売上高あたりの可燃ごみ排出量を2017年度比60%⇒32%削減

【中期目標（2025～2027）】同上2017年度比62%⇒34%削減

<可燃ごみ排出量>



【取組結果】※()内は売上高100万円あたり

■ 2021(2017)年度実績: 542 kg (3.2)

■ 2025年度目標: 439 kg (2.1)

■ 2025年度実績: 487 kg (2.2)

■ 増減量: -55 kg (-1.0)

■ 増減率: -10.1% (-30.3%)

<売上高あたりの可燃ごみ排出量>



【コメント】 主な可燃ごみは宅配等で届く分析試料の梱包材となっています。依頼件数は年々増加の傾向にあり、なるべく再利用するようにしていますが、限度があり大幅な減少は難しいのが現状です。今後も分別の徹底により可燃ごみの増加を抑えていきます。

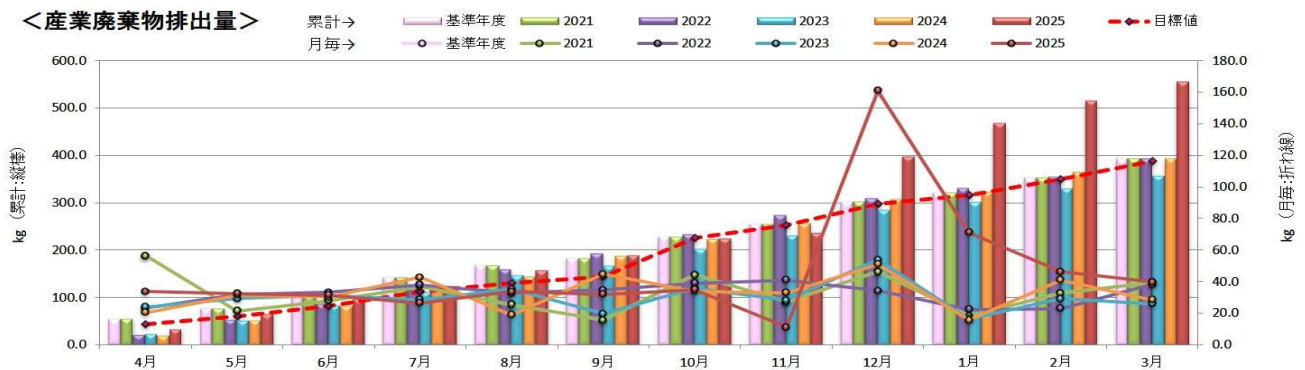
■ 廃棄物排出量（産業廃棄物） ※建設産廃を除く

【2025年度目標】売上高あたりの指定産業廃棄物(注)排出量を2020年度比40%⇒15%削減

注) 廃プラ、廃ガラス、その他不燃物を対象とします。汚泥・重金属廃液・有機溶剤廃液・廃酸・廃アルカリは分析業務に伴って発生するものなので、数値目標の設定は行わず、定性的な管理を行います。

【中期目標（2025～2027）】 同上2020年度比23%⇒17%削減

<産業廃棄物排出量>



【取組結果】※()内は売上高100万円あたり

■ 2021(2020)年度実績: 392 kg (2.1)

■ 2025年度目標: 372⇒388 kg (1.3⇒1.8)

■ 2025年度実績: 554 kg (1.3)

■ 増減量: +162 kg (+0.4)

■ 増減率: +41.5% (+18.9%)

<売上高あたりの産業廃棄物排出量>

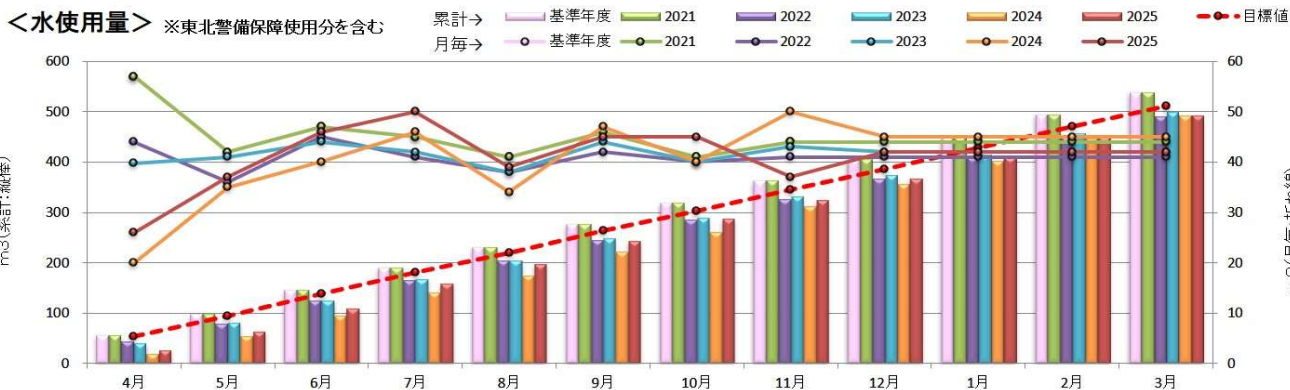


【コメント】 12月に大規模な環境整備を行ったため、一時的に不燃物の排出量が大幅に増加してしまいました。業務上、どうしてもディスプレイを使用せざるを得ず、その廃棄により、廃プラの排出量が增大してしまいました。

■ 水使用量(総排水量)

【2025年度目標】水道使用量を2021年度比5%削減
【中期目標(2025~2027)】2021年度比5%削減を維持

目標達成!



【取組結果】

- 2021年度実績: 539 m³
- 2025年度目標: 512 m³
- 2025年度実績: 493 m³
- 増減量: -46 m³
- 増減率: -8.5 %

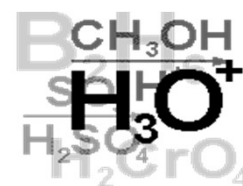
※12月から翌年4月分までの冬期間は、検針がないため、5月検針値を按分しました。

【コメント】東北警備使用分も含めて評価しています。実験器具の洗浄用水以外は、ほぼ生活用水での使用となっています。下半期に器具洗浄機を導入しました。大幅な節水効果は見られませんでした。今後、洗浄機の運用効率を上げることで節水効果は期待できるものと考えています。



■ 化学物質使用量 (PRTR該当化学物質)

【2025年度目標】 該当品リストの作成と使用量の把握と管理
【中期目標(2025~2027)】 同上



号番号	物質名	使用量					単位	号番号	物質名	使用量					単位
		2021	2022	2023	2024	2025				2021	2022	2023	2024	2025	
1	亜鉛の水溶性化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g	281	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	mL
13	アセトニトリル	110	120	320	280	230	mL	282	トリクロロ酢酸	0	0	0	0	0	g
75	カドミウム及びその化合物	2.0	1.9	0.1	0.1	0.1	g	300	トルエン	0	0	0	0	0	mL
82	銀及びその水溶性化合物	0	0	0	0	0	g	305	鉛化合物	1.3	1.2	0.12	0.12	0.12	g
87	クロム及び三価クロム化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g	309	ニッケル化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g
88	六価クロム化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g	318	二硫化炭素	4.3	9.8	6.0	12.1	5.1	L
113	シマジン	0	0	0	0	0	mL	332	砒素及びその無機化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g
132	コバルト及びその化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g	349	フェノール	12	12	1.2	1.2	1.2	g
150	1,4-ジオキサン	0	0	0	0	0	mL	392	ノルマルヘキサン	59	65	80	79	66	L
186	ジクロロメタン	0	0	0	0	0	mL	400	ベンゼン	0	0	0	0	0	mL
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0	0	0	0	0	mL	405	ほう素化合物	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	g
237	水銀及びその化合物	0.15	0.13	0.12	0.12	0.12	g	406	ポリ塩化ビフェニル	0	0	0	0	0	g
239	塩化第二スズ化合物	1.2	1.2	0	0	0	g	411	ホルムアルデヒド	0	0	0	0	0	mL
242	セレン及びその化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g	412	マンガン及びその化合物	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g
272	銅水溶性塩	1.2	1.2	0.12	0.12	0.12	g								

【コメント】当社で使用しているPRTR該当化学物質29種類をリストアップし、使用量を把握しています。使用量が多い物質はノルマルヘキサンで66 L、次いで、二硫化炭素で5.1 Lとなっています。ノルマルヘキサンは水質分析に、二硫化炭素は作業環境測定の有機溶剤分析に使用しており、廃棄物として移動もしくは大気に放出されます。両者ともに業務量に比例して排出移動量は変動しますが、最小限の使用と適正処理回収に努めます。

使用量が多い物質、有害性・危険性の大きな物質をリストアップし、労働安全衛生法に基づいて化学物質のリスクアセスメントを実施しています。



■ 自主設定項目(製品・サービス関連)

1) 環境情報の発信・コミュニケーション推進

【2025年度目標】年4回社内報(情報誌)を発行
【中期目標(2025~2027)】同上

【コメント】業務多忙の中、「NKC通信」をなんとか4回発行できました。
社員だけでなく、お客様とのコミュニケーションづくりに活用しています。

目標達成!

【取組結果】

■ 2025年度実績: 4回



環境情報の発信

コミュニケーションの推進
~NKC通信より~



エコアクション21
今年も活動中!

お客様に対して、法令改正の情報や新しい分析機器導入
や業務内容の紹介などの情報を積極的に発信しています。

法令
の話

水道水 水質基準
項目追加
PFOS及びPFOA
(PFAS関連)

水道水における水質基準項目に「PFOS及びPFOA」が加わることが、2025年6月の改正省令にて公布されています。基準値は「0.00005mg/L以下」(PFOSとPFOAの合算値)となります。2026年4月1日より施行となり、もう間もなくの施行となります。弊社では外注となりますが、PFOS・PFOAの分析対応可能です。ご希望の際は、担当者までご相談ください。

PFAS(ピーファス)、PFOS(ピーフォス)、PFOA(ピーフォア) について

PFASとは有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物を総称したものです。単一の物質を指すものではなく、多くの物質群の総称となります。分類の仕方にもよりますが、PFASには1万種類以上の物質があるとされています。PFOSとPFOAはPFASの一種で下記の物質を指します。

- ・PFOS: ペルフルオロオクタンスルホン酸
- ・PFOA: ペルフルオロオクタン酸

いずれも強く安定した炭素-フッ素結合を持ち、加水分解や光分解、微生物分解及び代謝などに耐性があります。ものによっては撥水・撥油性があったり、熱・化学的安定性があったりと、利便性の高さが特徴です。そのため2000年代初頭まで、多くの製品・加工に使用されてきました。

しかし近年、生物への影響も確認され、その毒性について注目されるようになりました。WHOの国際がん研究機関は、PFOAを「発がん性がある(Group 1)」、PFOSを「発がん性の可能性あり(Group 2B)」と評価しています。また、「難分解性・高蓄積性・長距離移動性」という特徴を有するPFASは、分解されにくく、製造・放出されたものが何らかの形で長期間自然界に残り続ける可能性が高いとされています。環境に残留したPFASは河川や地下水などを媒介に、広域に拡散する可能性があり、拡散すればするほど、人体への接種リスクが高まります。上記のような環境中への残留性や健康影響への懸念から国際的に規制が進み、ストックホルム条約(POPs条約)にて廃絶等の対象物質となりました。国内でもそれに伴い、新たな製造・輸入等を原則禁止としています。

PFOS・PFOAの代表的な使用製品

調理器具



防水加工した衣服



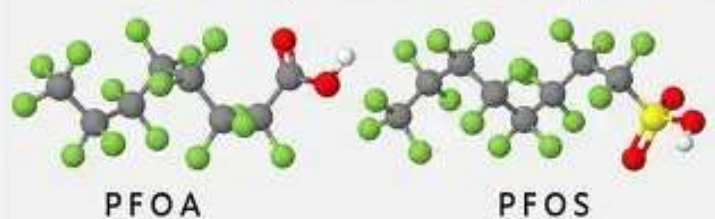
布製品



食品包装紙



PFAS(有機フッ素化合物)



PFOA

PFOS

目標未達...

【取組結果】

- 2022年度実績: 4,179 円/h
- 2025年度目標: 4,848 円/h
- 2025年度実績: 4,720 円/h
- 増減量: +541 円/h
- 増減率: +12.9%

2) 採算性の向上 (分析内製化による外注費の削減及び機器自動化による労働時間削減)

【2025年度目標】時間当たり限界利益値※を2022年度比16%増

【中期目標 (2025~2027)】2022年度比20%増
※限界利益 = (売上高 - 外注費等変動費) ÷ 総労働時間

【コメント】業務の内製化を強化しながら、業務の効率化を推進してきましたが、売上が思ったように伸びず、また消耗品などの経費が増加したことが要因と思われます。

「楽しいエコ・儲かるエコ」を進めよう!

3) 改善提案 ※環境以外でも可

【2025年度目標】1人毎月1件以上提案

【中期目標 (2025~2027)】同上を継続

2025年度実績

127件

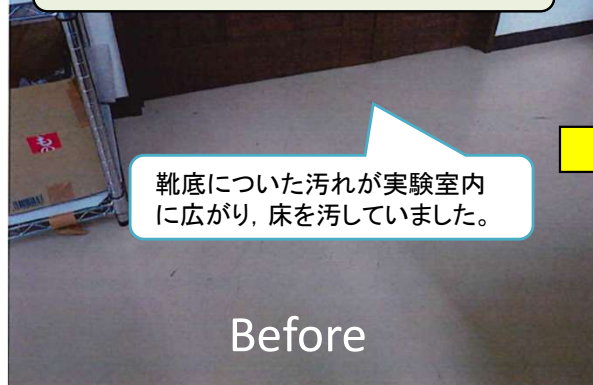
業務改善活動

目標達成!



環境だけでなく、業務の効率化, 5S推進, 安全衛生, なんでもOK。質より量, とにかく出すことが大切。

靴底に付着した汚れの拡散防止策



使用頻度の高い全窒素(T-N), 全リン(T-P), COD-Crの廃液カードを作成し、一時的な保管場所を決めました。廃液カードには廃液処理方法を記入してあり、誰でも処理作業が可能です。



来社した間違った入口から社内に入ってしまうないように「STAFF ONLY」の看板を設置しました。



分析室 新機器 続々導入

弊社ではここ数年、分析精度の向上や、業務効率の改善を目的に、様々な機器を更新・導入しております。その一部をご紹介します。

超純水装置

超純水を精製する装置を新調しました。また広くなった分析室に対応するため、新たに二台目を導入しています。



自動器具洗浄機

器具や容器を自動で洗浄・乾燥してくれる洗浄機を新たに導入しました。業務効率UPに貢献してくれています。



4) ネット受託件数の増加

【2025年度目標】2022年度受託件数から30%増加
【中期目標(2025~2027)】 基準年度受託件数から40%増加

【取組結果】

■ 2022年度実績: 325 件	■ 2025年度目標: 423 件
■ 2025年度実績: 446 件	■ 増減: 121件 ■ 増減率: 37%

目標達成!



■ 地域貢献活動関連

1) 「NPO環境ネットやまがた」主催行事等への参加協力

【2025年度目標】年2回以上 **【中期目標(2025~2027)】**年2回以上

2) 会社周辺の清掃・美化活動(草取り・ごみ拾い・みどりのカーテン等)
 年2回(6月, 10月)



「山形県地球温暖化対策推進事業所登録制度」への登録など、NPO環境ネットやまがた(山形県地球温暖化防止活動推進センター)が主催する事業への参加協力しています。また、毎年、みどりのカーテンや植栽を行い、年2回、会社周辺の清掃活動などを実施しています。

エコアクション21 活動日誌

会社周辺美化清掃活動

今年度も会社周辺の清掃活動に取り組んでいます。



グリーンカーテン・玄関花壇

今年は7月からの猛暑で既にへたれ気味です…。



教育・訓練も抜かなく…

令和7年度

災害廃棄物 仮置場 設置訓練

へ参加しました

2025年6月に山形県最上郡舟形町にて行われた「令和7年度 山形県災害廃棄物仮置場設置訓練」へ弊社の社員3名が参加してきました。

弊社は直接的に災害廃棄物の仮置場を設置する機関ではありませんが、廃棄物を分析する立場として無関係ではないため、知見を広げるため参加してきました。

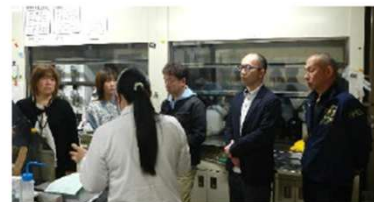
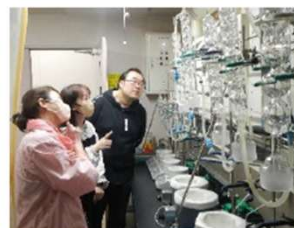
6月にしては気温が高めの中、実際に仮置場を作ったり、サンプルの廃棄物の搬入の誘導を行ったりと、実践を交えて学習しました。訓練の後半には、燃料電池自動車からの電源供給の訓練も行われ、普段の業務を通しては経験できないような事柄に触れ、多くの学びがありました。



2025年 @埼玉県

研修旅行

2025年4月11日に、本年度の研修旅行を実施しました。今年度は東邦化研株式会社様を訪れるために埼玉県越谷市へ赴きました。



令和7年度 @山形

東北・北海道 計量大会

へ参加してきました

2025年10月2日に、東北・北海道ブロックの計量大会が山形市のホテルメトロポリタン山形にて開催されました。今年は久々の地元開催となりましたので、弊社の参加希望者も少々多く、計5名にて参加してきました。



3-3. 次年度(2026年度)の環境経営目標

環境目標項目	基準年	実績値	環境目標 (2026年4月～2027年3月まで)		備考	
			環境目標の内容	目標値		
二酸化炭素排出量	■総二酸化炭素排出量	2014	335 kg-CO2 /100万円	売上百万円あたりの排出量を 基準年度実績値から 42%削減	194 kg-CO2 /100万円	単位: kg-CO2/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■電力使用	2014	327 kWh /100万円	売上百万円あたりの使用量を 基準年度実績値から 28%削減	235 kWh /100万円	単位: kWh/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■化石燃料消費					
	ガソリン	2014	80 リットル /100万円	売上百万円あたりの使用量を 基準年度実績値から 55%削減	36 リットル /100万円	単位: リットル/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	※製品・サービス 関連目標	2014	13.2 km/L	車両燃費: 15km/L以上	15 km/L	単位: km/L
排出廃棄物	■一般廃棄物 (対象: 可燃ごみ)	2017	3.2 kg /100万円	売上百万円あたりの排出量を 基準年度実績値から 32%削減	2.1 kg /100万円	単位: kg/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする
	■産業廃棄物	2020	2.1 kg /100万円	売上百万円あたりの排出量を 基準年度実績値から 15%削減	1.8 kg /100万円	単位: kg/売上高100万円 ※売上高は本社売上を対象とする ※汚泥・重金属廃液・有機溶剤廃液・廃酸・廃アルカリは対象外
水総量排	■上水使用量	2021	539 m ³	水道使用量を基準年度実績値 から 5%削減(維持)	512 m ³	単位: m ³ ※東北警備使用分も含める
物化学質	■化学物質 (PRTR該当)	—	—	薬品管理規程に基づく適正管理	—	長期的にはPRTR該当物質を使用しない方向で進める
(製品自主設定サービス項目連)	■環境情報の発信	/	/	社内報の発行	4回	A4両面刷り1枚程度を想定
	■採算性の向上 「分析内製化による外注費の削減及び機器自動化による労働時間削減」	2022	4,179 円/h	「時間当たり限界利益値※」を 基準年度比 16%増	4,848 円/h	※限界利益＝ (売上高－外注費等変動費) ÷総労働時間 ※2022年度実績は労働者数の 増加分を補正
	■改善提案件数	—	—	1人毎月1件以上	月1件以上	※環境に限らずなんでもOK
	■ネット売上額の増加	2022	325 件	基準年度受託件数から 40%増	455 件	単位: 件数 「産廃・土壌ドットコム対象」
地域貢献活動	■環境保護団体への支援・協力	—	—	環境NPOの支援・協力	—	参加状況を記録(環境教育)
		—	—	環境関連団体等が主催する イベント・研修会等への参加	年2回以上	
	■会社周辺の清掃活動・美化活動	—	—	会社周辺のゴミ拾い (グリーンカーテン)	6月、10月(夏季)	社内報等で紹介する
建設工事現場	現場毎に「建設現場環境経営方針・環境経営目標・環境経営計画」を策定し、その取組状況を把握管理			工期内	※比較的大規模な工事を対象とする 建設現場環境取組(NE-06-4)	
某工場内分析業務請負現場	定性的な重点取組目標(計画)を年度ごとに定め、その取組み状況を管理、			工期内	環境経営計画取組状況(NE-13-2)	



「なせば成る
為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の
為さぬなりけり」

米沢市マスコットキャラクター

おせんちゃん

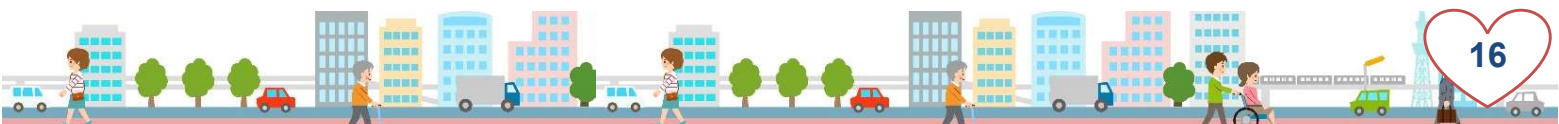
4. 環境経営計画の取組結果並びに次年度の取組内容



4-1. 2025年度環境経営計画と取組結果

<評価判定の目安>
 ○…実施済。80%以上の社員が取組んでいる。80点以上の満足度である。
 △…一部未実施。50～80%の社員が取組んでいる。50～80点ぐらいの満足度である。
 ×…未実施。50%未満の社員しか取組んでいない。50点未満の満足度である。(是正処置の対象)

環境目標	活動・取組項目	活動の具体的内容 (どのように)	4～9月	10～3月	備考、是正処置の必要性等
二酸化炭素排出量の削減	■消費電力の削減	■室温は、暖房期20℃、冷房期28℃で管理	○	○	
		■サーキュレーターを稼働させ、室内温度差をなくす	○	○	
		■使用していない部屋のエアコンはOFF	○	○	
		■定期的にエアコンのフィルターを清掃	○	○	
		■エアコンを使用しない時期はブレーカーを切る(コンセントを抜く)	○	○	
		■不要な照明は消灯	○	○	
		■クールビズの推進(Tシャツ・ポロシャツ着用)	○	—	
		■ウォームビズの推進(プラス一枚で暖かく)	—	○	
		■パソコンは省エネモードで使用	○	○	
		■トイレの暖房便座の使用禁止(温水の温度設定は「低」)	○	○	
		■電力使用量の掲示(「見える化」の推進)	○	○	掲示板
		■分析機器の効率運転(ウォームアップ時間の短縮・タイマー利用)	○	○	
		■分析条件の見直し(前処理温度、処理時間等)	○	○	
		■直射日光を遮る工夫(ブラインド)	○	○	
	■直射日光を遮る工夫(緑のカーテン)	○	—		
	■ガソリン・軽油使用量の削減 ※製品・サービス関連目標	■エコドライブの教育研修	○	○	※可能なら実地研修
		■エコドライブ自己評価を実施(チェック表による)	○	○	
		■燃費・走行距離の把握(車両日報の記入)	○	○	
		■5000km(6ヶ月)ごとにオイル交換、10000km(1年)ごとにエレメント交換	○	○	
		■適切な時期でのタイヤ交換	○	○	
■適切な空気圧の維持		○	○		
■エコタイヤの導入		○	○		
■不要な荷物を乗せたままにしない		○	○		
■その他化石燃料の削減(LPG)	■必要最低限の温度で給湯	○	○		
	■夏期は使用しない(ガスの元栓を締める)	○	—		
の削減と物適排出管理	■一般廃棄物の削減(リサイクルの推進)	■分別のルール周知徹底	○	○	
		■不要な資料・カタログ等の辞退・返却	○	○	
		■コピー用紙削減(両面コピー・裏紙利用の徹底)	○	○	
		■一般廃棄物の排出量記録	○	○	
		■社内の整理整頓	○	○	
の削減と物適排出管理	■産業廃棄物の適正管理	■保管場所の管理(安全衛生状態も含む)	○	○	
		■実験室廃液等の廃棄保管ルールの周知・運用管理	○	○	
		■マニフェスト・契約書類の管理	○	○	
		■委託先の状況確認	—	—	未確認委託先を対象
		■重金属廃液量の削減方法の検討と試行	○	○	継続的に検討中



総排水量の削減	■水道使用量の削減	■「節水」の監視強化	○	○	
		■その他節水対策機器に関する情報収集	○	○	
化学物質管理	■化学物質の適正管理	■SDSの整備と活用(電子版でも可)	○	○	
		■主にPRTR該当化学物質の適正利用基準の管理運用	○	○	
		■化学物質を使用しない分析方法の検討	○	○	継続して情報収集
		■毒劇物の適正管理(使用量の把握と残量確認)	○	○	
■不要薬品類の撤去	■不要薬品類の選別と撤去(処理業者への引き渡し)	—	○		
(製品サービ ス設定項目 関連)	■社員のスキルアップ	■技術研修会の情報収集	○	○	
		■研修成果報告会等の実施	○	○	
		■業界団体が実施する精度管理事業への参加と目標水準の維持	—	○	
	■環境情報の発信 (社内報の発行等)	■情報の収集・原稿等の依頼(社内・社外)	○	○	
		■社内報の発行	○	○	
		■自社HP等の更新	○	○	
	■採算性の向上	■外注業務の削減(分析内製化の推進)	○	○	
		■残業時間の削減(ノー残業デー)	○	○	
		■分析機器の自動化推進	○	○	
		■分析業務の多能工化	○	○	
	■改善提案件数の増加	■毎月1件以上の改善案の提出	○	○	
		■表彰制度の創設	—	○	
		■提案の実行とさらなる改善	○	○	
	■ネット売上額の増加 (産廃・土壌ドットコム)	■ネット検案件数チェックとHP内容の見直し	○	○	
		■ネット広告(PPC広告)の適切な運用と改善	○	○	
		■定期顧客への訪問による新規分析案件の拡充	○	○	
地域貢献	■環境保護団体への協力	■「環境ネットやまがた」主催の活動・セミナーへの参加	○	○	
	■会社周辺の清掃活動	■周辺道路のごみ拾い、草刈りなどの実施	○	○	
	■敷地内緑化の推進	■フラワーポットに花を植える	○	—	

認証取得後11年が経過し、省エネやゴミの分別の取組に関しては、ほぼ定着しています。また、業務多忙が続く中、環境情報の発信(社内報発行:年4回)や新規取組として設定した改善提案についても、様々な改善提案が提出され、業務の効率化だけでなく、モチベーションアップにも役立っています。

4-2. 2026年度以降の取組内容

2025年度の取組を継続するとともに、自主設定項目として設定した「採算性の向上」、「改善提案件数の増加」、「ネット受託件数の増加」の取組について、経営上の課題とチャンスを意識しつつ、さらに強化を図っていきます。また、世の中の動きに合わせて、RE100電源への切り替えやSBT(中小企業版)の認証取得などについて、情報収集に努めていきます。

5. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無



5-1. 該当する環境関連法規等とその遵守状況

当社に適用される主な環境関連法規は下記のとおりです。

- 廃棄物処理法
- フロン排出抑制法
- 水質汚濁防止法
- 下水道法
- 毒劇物取締法

2026年6月19日付で遵守状況を確認した結果、その遵守状況に問題はありませんでした。



環境への取組は、
地球への愛

5-2. 訴訟等の有無

環境面での訴訟、行政処分等は、創業以来一度もありません。
また、外部からの環境に関する苦情も創業以来、一度もありません。

6. 代表者による見直しの結果(経営者のコメント)



当社のCO2排出量については、遺憾ながら取組開始以来、ほとんど減少していません。しかし、売上高あたりのCO2排出量は年々確実に減少しております。私たちの仕事は、お客様の環境管理のお手伝いする仕事であり、「正確な情報をなるべく安価かつ迅速に提供する」ことが社会的な使命と考えています。業務量が増加して、エネルギー消費が増加することは、ある程度、やむを得ないこととして、その分、お客様の環境負荷やリスクの削減につながるような情報を積極的に発信していきたいと思っています。

環境経営目標中、経営の本質に関連する項目として、「採算性の向上」、「改善提案件数」、「ネット売上額」の3項目を設定しています。採算性については、結果として目標未達になったものの、基準年度の2022年度からは13%の増加となっています。今後も外注業務の内製化を進めるなど、採算性の向上に努めていきます。また、改善提案についても本レポート上で紹介しているとおり、大変有効に機能しており、ネット売上額についても基準年度(2022)比37%増となり、十分に満足できる結果となりました。

また、取組のもう一つの柱と位置付けている環境コミュニケーションの推進(社内報の発行)については、業務多忙の中、予定通り4回発行することができました。当社の取組みを外部にアピールするとともに企業価値の向上につながっているものと思っています。地域の環境保全に貢献していることを自負しながら、仕事も省エネも「楽しく」をモットーにエコアクション21の活動を継続してまいります。

令和8年6月22日

代表取締役 武田誠一郎



<EA21環境経営システム変更の必要性と主な変更指示内容>

- 環境経営方針: 継続
- 環境経営目標: 取組項目については現状維持でよい。基準年度ならびに削減率などについては、昨年度の実績などを踏まえ、適宜見直すこと。
- 環境経営計画: 基本的には継続で良いが、より実効性の高い内容に適宜入れ替えること。
- 実施体制: 継続(人事異動等があれば適宜変更すること)
- その他: 同じ建物に同居する東北警備保障と連携して、効果的な取り組みを推進すること。地域貢献活動関連目標としてSDGsを意識して環境NPOの支援と協力の強化を図ること。経営効率を上げ、売上高あたりでの目標の達成を目指すこと。また、計画的に環境教育を実施すること。



®環境省

エコアクション21 認証番号0010347



**「楽しいエコ・儲かるエコ」
を進めよう！**

<アクセス>



この環境経営レポートは、ご希望の方に差し上げています。ご希望の方は、弊社窓口でお申し出いただくか、下記宛ご連絡下さい。また、当社HP (<http://www.next-enviro.co.jp>)、エコアクション21中央事務局のHP (<http://www.ea21.jp>)でもご覧いただけます。

〒992-0119 山形県米沢市アルカディア1丁目808番地17
ネクスト環境コンサルタント株式会社
TEL: 0238-29-0025 FAX: 0238-29-0015

